（3） 本年度の学校評価

本年度の重点目標（評価項目）	①	キャリア教育の推進
	②	安全・安心な学校づくり
	③	授業力・専門性の向上
	④	豊かな心と健やかな体の育成
	⑤	授業・行事の充実
	⑥	センター的機能の充実と理解促進
	⑦	開かれた学校づくり

自己評価

担当	評価項目	目標・具体的方策	留意事項
幼小学部	⑤	友達や周りの人と、積極的にかかわろうとする態度を養うための指導の内容や在り方を工夫する。	・職員同士の情報共有を密にし、チームとして幼児児童一人一人指導や支援をする。 ・交流活動を積極的に行う。ICTを活用した他校との交流も継続していく。 ・体験的な活動を積極的に取り入れる。
中学部	①	生徒一人一人の実態やニーズに応じたチャレンジ体験を実施するとともに、日常の学校生活や各種行事においても、年度当初に設定した個々の目標の達成に向けた支援を行う。	・チェックシートを活用し、生徒が自分の個性や特性を理解し、問題意識をもって具体的な目標を設定し、主体的に活動に取り組むことができるよう、指導・支援する。 ・目標の達成状況について自己評価を行うとともに、教師や保護者等と共通理解を図ることで、自らの成長を実感できるようにする。 ・3年生のチャレンジ体験では、具体的な目標を設定して取り組み、報告会で成果や課題、感想を発表する。また、その発表を聞く機会を通して、中学部生徒全体の職業観の育成を図る。
高等部	①	希望の進路実現に向けて、学校生活のさまざまな場面を通して、将来必要となるコミュニケーション力および心身のコントロール方法等を身に付けられるようにする。	・自分の具体的な将来像を描き、学校生活の中で生徒同士の協力や意見交換の場面を多く設定することで、他者と良好な関係を築く力を身に付けやすくする。 ・自分に合った心身のコントロール方法を教師と一緒に見つける。
総務	⑦	岡崎盲学校の魅力や特色がより伝わるような学校要覧を作成する。	・4月の段階で掲載する写真のテーマを検討し、テーマに沿った写真を撮影できるようにする。 ・他校の学校要覧を参考にする。
教務	③ ⑤	各教科等の授業力の向上を図るとともに、他部と連携してつながりのある一貫した指導を進める。	・各教科の「教科会1」、各教科等を合わせた指導や自立活動を含む「教科会2」の中で、幼稚部や高等部までつながりのある指導ができるように話し合いを進める。 ・授業参観週間への参加を促すなどして、幼児児童生徒の共通理解、引き継ぎを効果的に進める。
生徒指導	②	危機管理マニュアルを見直すとともに各避難訓練を含めた防犯防災教育の充実を図り、安全・安心な学校づくりに努める。	・危機管理マニュアルのガイドラインに則り、保健体育部と連携しながらマニュアルを見直す。 ・避難訓練（地震）を改善し、より現実的かつ安全な方法で実施する。
進路指導	①	各家庭の進路希望を具体的に把握し、広い視野から将来の生き方や、適切な進路判断につながるための情報提供を行う。	・「進路の手引き」及び進路情報誌「DREAM」を媒体とし、進路選択や日々の生活に関わる啓発的な情報を、学校全体の教員が連携して発信する。
保健体育	② ④	保健関係資料の精査・更新を行い、リスクマネジメント及びクライシスマネジメントの体制の強化を図る。 体育祭をとおして、主体的に取り組む態度を育て、仲間とともにやり遂げ喜びを味わえるようにする。	・文科省の「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドラインを参考に、生徒指導部と連携しながら本校のマニュアルを見直し、より分かりやすく使いやすいものを作成する。 ・立案計画をわかりやすく迅速に行い、幼児児童生徒及び職員が見通しをもって、主体的に活動に取り組めるようにする。

教育情報	③	視覚障害教育の専門性と教科指導力の向上のため、ICT機器の利用を推進する。	・点字・点図等をつくるソフトの紹介や点字プリンターの扱い方を職員の研修で実施していく。 ・PDF版拡大教科書を利用した授業を推進していく。
	⑤	障害特性や発達段階に応じた読書活動の推進を図る。	・ボランティアを活用した対面朗読の機会を充実させる。
自立活動	⑥	学校全体で地域支援に携われるような体制づくりを行う。 センター的機能の強化を目指し、研修や行事などの内容の検討・実施を行う。	・専門性向上研修に「教育相談の記録・見学」を加え、全職員が携われるようにする。 ・地域支援のすみ分けの明確化、支援体制の見直しを行い、スムーズな連携や情報共有ができるようにする。 ・ニーズに沿った研修会の実施や新たに授業交流会の実施などを通して、地域支援業務の充実を図る。
寮務	④	寄宿舎、学校、家庭間のつながりを意識することで、舎生を包括的に指導できるようにする。	・舎生の生活目標の設定を担任と保護者と連携して作成する。 ・寄宿舎日誌を活用し、舎生の情報を担任や学部と共有する。

学校関係者評価を実施する主な評価項目	保護者や地域に対し、授業公開日や行事及びホームページを通して、情報発信に努めるとともに、関係機関への訪問による啓発活動を継続して行う。地域の小中学校及び高等学校と情報を共有し、盲学校を正しく理解してもらうとともに連携強化を図る。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組について	児童生徒への生活アンケート（年３回）、教職員への「いじめ防止取組」アンケートにより的確な状況把握に努める。自殺防止に関する職員研修を実施し意識の向上を図る。
勤務時間の適性な管理及び長時間労働による健康障害防止について	在校時間記録により勤務状況を把握し、適切な勤務時間内で業務が進められるよう業務の改善や見直しを定期的に実施する。定時退校日を増やし、計画的かつ効率よく業務を進められるようにする。情報共有や相互理解を図り風通しの良い職場づくりを実践する。